

重心動揺検査

重心動揺検査とは？

直立姿勢に現れる身体の揺れを記録・解析して、身体のバランス機能を検査します。また、動脈硬化、糖尿病、脳白質障害の早期発見も目的としています。めまい・平衡障害の自覚のある方は、ぜひ重心動揺検査をご検討ください。

バランス機能に障害を来す疾患

- 内耳の疾患（例：メニエール病）
 - 中枢神経障害
 - 脊髄反射障害
- など



検査の流れは？

検査に要する時間は、準備含め5～10分です。（検査は3分）
（洋服は着たままで行います。台の上で直立するだけの検査になります。）

検査台の上に立ち ①目を開けて1分直立 ②目を閉じて1分直立

検査台から降りて、ラバー（クッション）を検査台の上に乗せて検査台の上に立ち ③目を開けて30秒直立 ④目を閉じて30秒直立

*ラバーをのせた検査台は不安定になります。ふらつきの強い方や、普段杖を使用していて直立が難しい方などは検査をお断りする可能性があります。

安全面に配慮して検査を行いますので、ご理解ご協力お願い致します。

